

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	高等教育推進センター
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
1. 組織の編成原理を毎年、教育推進連絡会議で検証する。	→ 1. 教育推進連絡会議における検証の有無	B	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 教育研究組織としては、専任教員1名、任期制教員2名が、今後着任することにより、十分な体制が整う。特に11年4月より着任予定であった、任期制教員1名の採用が遅れていることが課題である。
☆ 小項目 4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いづれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 検証している <input checked="" type="radio"/> 検証していない (説明) 2010年度に新設された組織であるため、組織の適切性について定期的に検証するのは今後の課題である。なお、2011年度はセンター執行部を中心となってセンター内部で組織の適切性に関して検討を行った。
その他	

《評価指標データ》

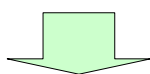
- 博士研究員（PD）の受入状況
- 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
- 研究誌発行状況
- 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
- 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
- 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
- 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
- 21世紀COEプログラムの採択状況
- 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況【基本的な基礎データ】
- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
- 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況【基本的な基礎データ】
- 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

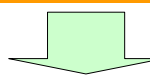
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆その他 (自由記述)	センターの目的に合致した共同研究に助成を行うなど、教育力の強化、教育の質向上に向けた施策を実施する。
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

○教育研究組織としての人的整備が若干遅れているようですが、近い将来に理想的な体制になることが期待されます。理念・目的の適切性についての検証ですが、2010年に設置された組織ということもあり、ある程度の時間が経過したのち、これが行われることを期待します。

○高等教育の推進に関わる部局としてふさわしい検証の体制を早急に構築することが期待されます。

○自己点検・評価の対象は2010年度ですから、小項目4.0.1の現状説明は2010年度の状況について記述をお願いします。

○理念・目的の項目と同様、検証の体制を整えることを改善すべき事項にあげる必要はないでしょうか。目標にも設定されています。

○検証が今後の課題でありながら、それについての目標の進捗評価が「B」です。一致していません。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1
基盤評価：なし
達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2
基盤評価：なし
達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 専任教員1名の採用、任期制教員の採用に関しては、新中期計画で2011年度に任期制教員2名、2012年度に専任教員1名、任期制教員1名となっている。2010年度において任期制教員2名の採用人事推薦委員会を立ち上げ、2名の人事を推薦した。大学評議会ではそのうち1名のみ採用が決定された。したがって、2011年度においては、専任教員1名と任期制教員2名の採用人事を行うことが計画されている。